

蘇^(注1)文忠公自^リ出^レ獄^ヲ後、但^ダ食^ニ已^ニ死^{セル}之物^ノ、絶^エ不^ス宰^(注2)殺^セ一^ノ生^{ケルモノ}。自^ラ謂^フ、「非^ハ有^{ルニ}所^レ求^{ムル}。因^{リテ}己^ノ親^ヲ、經^ニ患^ヲ難^ヲ、無^{キニ}異^{ナル}鷄^(注3)鴨^{あふ}之^{ルニ}在^ニ庖^{ほう}廚^{ちう}、不^下復^以ニ口腹之故^{、致}使^有生之類^受ニ無量怖苦^耳。今^未能^ハ断^ツ肉^ヲ、当^ニ守^ルニ文忠公^此戒^ニ可^也。

(王弘撰『山志』による)

- (注)
- 1 蘇文忠公——北宋の文人、蘇軾のこと。政争により入獄していたことがある。
 - 2 宰殺——食肉にするために動物を殺すこと。
 - 3 鷄鴨——ニワトリやアヒル。
 - 4 庖廚——台所。

問 傍線部A「不^下復^以ニ口腹之故^{、致}使^有生之類^受ニ無量怖苦^耳」の書き下し文として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 復た口腹の故を以てするも、有生の類の無量の怖苦を受くる使ひを致さざるのみと
- ② 復るに口腹の故を以て、有生の類をして無量の怖苦を受けしむるを致さざるのみと
- ③ 復た口腹の故を以て、有生の類をして無量の怖苦を受けしむるを致さざるのみと
- ④ 復るに口腹の故を以てするも、有生の類の無量の怖苦を受けしむるを致さざるのみと
- ⑤ 復た口腹の故を以て、有生の類をして無量の怖苦を受くる使ひを致さざるのみと

解 答

蓮^ハ之^ヲ為^ル物、愛^ス之^ヲ者、或^ハ以^テ臭^ニ味^ヲ、或^ハ以^テ芳^ニ沢^ヲ、未^ダ有^ラ能^ク知^ル其^ノ德^ヲ者^上也。自^リ周^{注3}子^{注3}為^シ之^ガ說^ヲ、而^{シテ}人^ニ莫^シ不^レ稱^ニ其^ノ德^ヲ矣。然^{レドモ}未^レ及^バ其^ノ才^ニ也。

窃^ヒ見^ル用^ニ之^ニ大^{ナル}者、実^ト与^ハ根^ヲ可^ク以^テ供^ス籩^ニ豆^ニ、可^ク以^テ充^ツ民^ノ食^ニ、可^ク以^テ療^ス疾^ニ、^{注5}痰^ニ、^{注5}細^ニ、^{注6}至^ニ葉^ニ・鬚^ニ・莖^ニ・節^ニ、無^ク以^テ充^ツ民^ノ食^ニ、可^ク以^テ療^ス疾^ニ、^{注5}痰^ニ、^{注5}細^ニ、^{注6}至^ニ葉^ニ・鬚^ニ・莖^ニ・節^ニ、無^ク

一 不^レ可^レ資^ニ人^ニ採^ル者^上。

(張履祥『楊園先生全集』による)

問 傍線部A「無^下一不^レ可^レ資^ニ人^ニ採^ル者^上」の書き下し文と解

釈の組合せとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

A 無^下一不^レ可^レ資^ニ人^ニ採^ル者^上

- ① 一として人の採択するに資すべからざる者無かれ
一人残らず蓮を採集する作業をしなければならぬ。
- ② 一として人に採択を資すべからざる者無からん
蓮で利益を得られない人は一人もいないだろう。
- ③ 一として人の採択に資するも可とせざる者無からん
蓮を人に贈ることを悪いという者は一人もいない。
- ④ 一として人の採択を資するに可とせざるは無し
人はだれでも蓮を採集してよいという気持ちになる。
- ⑤ 一として人の採択に資すべからざる者無し
蓮はこの部分であれ採集すれば必ず人の役に立つ。

- (注)
- 1 臭味——香り。
 - 2 芳沢——姿の美しさ。
 - 3 周子——周敦頤(一〇一七～七三)。「愛蓮説」を著した。
 - 4 供籩豆——祭祀の時、器に入れて供える。
 - 5 疾痰——熱病などの病気。
 - 6 鬚——花のおしべ。

解 答

噫、人非^{ザルモ}不^{ルニ}靈^{ナラ}於^ネ鼠^{ヨリモ}制^{スル}鼠^ヲ不^{シテ}能^{クセ}於^ニ人^ニ而^モ能^ク於^ニ狸^ニ奴^レ。狸^ニ奴^レ非^{ザルモ}不^{ルニ}靈^{ナラ}於^ニ人^{ヨリモ}鼠^ヲ畏^{オソレテ}。而^モ不^{シテ}畏^レ人^ヲ。然^{ラバ}則^チ彼^ノ各^ノ有^ル職^也。君子^ノ居^ル其^ノ職^ニ者^モ亦^タ尽^{クス}其^ノ職^ヲ而^モ已^ミ矣[。]

(胡儼『胡祭酒集』による)

(注)

狸奴——猫の別称。

問

傍線部A「人非不^レ靈^ニ於^ニ鼠^ニ、制^レ鼠^ヲ不^レ能^ニ於^ニ人^ニ而^モ能^ニ於^ニ狸^ニ奴^ニ」とあるが、どのようなことを言っているのか。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。

- ① 人間は鼠よりも賢くすぐれているのだが、鼠をおさえることができるのは、人間ではなくて猫である。
- ② 人間は鼠ほどずばしこくないので、猫を利用するのだから、鼠を追い出すことができない。
- ③ 人間は鼠よりも知能が発達しているのだが、猫を飼いならすようには、鼠を飼いならすことはできない。
- ④ 人間は霊長類の最たるものなのだが、現実に鼠を支配することができないのは、人間ではなくて猫である。
- ⑤ 人間は鼠ほどずる賢くはないので、猫を捕まえることはできても、鼠を捕まえることまではできない。

解 答

昔秦始皇(注1)問(注2)李信(注2)曰、「吾欲取(注3)荊。將軍度(注3)。」

用(注4)幾何人而足(注4)。李信曰、「不過(注4)二十萬人。」又

問(注4)王翦(注4)曰、「非(注4)六十萬人不可。」始皇使(注4)信伐(注4)荊。

既而軍敗、復欲使(注4)翦。翦曰、「大王必不得(注4)。」

已用(注4)臣、非(注4)六十萬人不可。」始皇從(注4)之、遂平(注4)荊、

地(注4)。

(秦観『淮海集』による)

(注)

- 1 秦始皇——秦の始皇帝。戦国時代末期に諸国を滅ぼし、天下を統一した。
- 2 李信——秦の將軍。
- 3 荊——戦国時代の楚の国のこと。
- 4 王翦——秦の將軍。

問 傍線部A「非六十万人不可。」の読み方として最も適当なもの
のはどれか。次の①～⑤のうちから一つ選べ。

A 非六十万人不可。

- ① 六十万人に非ざれば可ならず。
- ② 六十万人に非ずして可ならず。
- ③ 六十万人を非として可とせず。
- ④ 六十万人に非ずして可ならざらんや。
- ⑤ 六十万人を非として可とせざらんや。

解 答